「第5期日野市地域福祉計画(素案)」に対するパブリックコメントの結果報告書

第5期日野市地域福祉計画の策定に向けて、パブリックコメントを実施いたしました。皆様から貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。パブリックコメント集計結果や市の考え方について、以下のとおり報告いたします。

- 1 パブリックコメント実施期間
令和6年12月13日(金曜日)から令和7年1月14日(火曜日)まで
- 2 周知方法
広報ひの12月号、市ホームページ
- 3 素案の閲覧場所
福祉政策課、市内各図書館、七生支所、豊田駅連絡所、市ホームページ
- 4 ご意見の提出方法
持参、郵送、FAX、電子メール、フォーム
- 5 ご意見の件数
意見通数 4通、意見総数 4件
- 6 寄せられたご意見・ご提案及び市の考え方

項番	所属団体	該当項目	意見・提案	市の考え方	計画案への反映
1	76	成年後見制度利用促進に向けた施策の展開	<p>第二期成年後見制度利用促進基本計画では、成年後見制度の在り方そのものの見直しを視野に入れ「単に利用者の増加を目的とするのではない」という明確な方針が示されました。多くの場合で一度利用し始めると終了することができないため、生涯にわたる経済的な負担も大きくなり、一時的なトラブルや相続等の課題の解決のための利用には不向きであること、また代行決定に至る過程では意思決定支援や不正防止等の方策が必要であることなどが指摘されており、「成年後見制度以外の権利擁護支援による対応の可能性についても考慮された上で、適切に成年後見制度が利用されるよう、連携体制を整備すること」が強調されています。</p> <p>第二期基本計画は、形式的には「促進」という枠組みを継承しながらも、実質的には制度の「転換」を図ろうとする試みとも言えます。さらに2022年10月の国連障害者権利委員会による総括所見では代行決定の廃止が勧告され、2024年2月には法務大臣が成年後見制度見直しを法制審に諮問するなど、成年後見制度は今まさに大きな転換期を迎えており、地域共生社会における権利擁護支援の在り方も再考する必要が生じています。</p> <p>上記の議論を通じて示された方針は、代替的意思決定から支援付き意思決定への転換です。「成年後見制度の在り方に関する研究会」からの報告書(2024年)では、後見人による代行決定は、「意思決定支援の可能性が尽きた場合の最終的な方法」であると位置づけられており、この文脈において重要なのは、①成年後見制度以外の解決策を地域の中で模索していくこと、②成年後見制度を利用する場合でも、地域社会との連携をより一層強化していくことの2点です。</p> <p>以上の観点から、地域福祉計画における成年後見制度の「利用促進」という表現について、一定の補足説明を加えることをご検討いただけないでしょうか。例えば、「本人の意思を尊重した適切な制度利用の促進」といった表現や、注釈等で単なる利用者数の増加を目指すものではないという趣旨を明記することで、近年の権利擁護支援をめぐる議論の方向性を計画に反映させることができると考えます。また、地域共生社会の実現に向けた包括的な権利擁護支援の在り方については、計画の実施過程において引き続き検討いただくことを期待いたします。</p>	<p>本計画における成年後見制度の利用促進は、ご指摘の趣旨を前提としたものですが、その考え方が、読み手に伝わるよう、頂いたご意見を踏まえ、表現を修正いたします。</p>	<p>計画案にご意見を反映します。</p>
2	74		<p>これまでの教訓を踏まえて、避難行動要配慮者の多くは避難所に行くよりも在宅にいたいことを希望する人が多いと思います。「在宅避難者」の支援について、具体的な検討が必要だと思います。在宅避難者の情報収集、避難者への情報発信、資機材の貸し出し、支援物資・食糧の配布、などが具体的な支援かと思えます。2024年6月に内閣府から「在宅・半泊避難者等の支援の手引き」が出力されていますので、参考にしてください。</p>	<p>災害時において、在宅避難が必要な人が一定数存在することは、市としても認識をしております。これまでの被災時の福祉支援活動の経験や教訓を踏まえ、在宅避難も含め、避難行動要支援者に対する必要な支援のあり方を検討してまいります。</p>	<p>計画案にご意見を反映します。</p>
3	73	社会福祉法人ネットワーク等による公益的活動の支援	<p>大いに賛成、近年ネットワークが有機的に結び付いてきた手応えを感じる。顔の見える関係から作られたネットワークの構成員が管理層に上がり、各法人の経営を担うような時期を迎えている。互いの強みを活かしながら、次の取組を実施していく事が出来れば、サービスを利用する人々にとってメリットは大きいように思う。</p>	<p>地域福祉の充実において、本ネットワークの役割の重要性は増していると感じております。</p>	<p>原案の通りとさせていただきます。</p>
4	44	市の取り組みの評価について	<p>①専門職によるアウトリーチの強化 →達成となっているが下記内容が達成理由が、アウトリーチの強化につながっていると読み取れない ②ひきこもりの当事者や家族を対象に居場所(たさあひあい)を確保し、自立に向けての支援を行った。</p>	<p>福祉分野におけるアウトリーチは、自宅などに出向く、訪問による相談支援が一般的ですが、最近では、若い世代を対象にインターネットやSNSなどのICTを活用してアプローチし、相談支援を実施することもアウトリーチのひとつの手法としてその広がりを見せています。 ひきこもりの方の中には、SNSのほか、自宅以外の場所であれば、家族以外の第三者と接点を持つことができる方も一定数おられます。たさあひあひは、そのような方へのアウトリーチの実践の場として確保したものであります。</p>	<p>原案の通りとさせていただきます。</p>